



十勝川治水100年
トークリレー 100年
③

国の食料安全保障も左右

十勝川治水促進期成会は、流域に位置する管内17市町村で構成され、「十勝川の恒久的な治水事業を促進するため、強力な施策を積極的に導入し、災害の絶無を期し、もって民生の安全を図ること」を目的に1992年に組織されました。これまで河川空間を生かした運動施設の整備をはじめ、国の支援をいたさきながら、良好な空間形成を目指す「かわまちづくり」に取り組んできています。

十勝川治水促進期成会会長 米沢則寿氏



となり、河川の氾濫により、住民の尊い命や財産が失われました。また、流出した農地の表土は、土を入れ替えれば元通りというわけにはいかず、先人による農作物への被害は、野菜価格の高騰や、ポテトチップスなどの加工食品の生産休止につながるなど、地元のみならず全国への影響が広がり、十勝川の治水対策は、住民

生活の安全・安心だけではなく、わが国の食料安全保障の点からも重要と考えています。

このため、国と連携した治水事業の推進をはじめ、気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、流域が一体となった治水対策を推進していくことが必要と強く感じています。今後も本会を通じて、地域の声を受け止め、国の政策に反映することができるよう、要望活動を強く進めていきたいと考えています。

◆ 十勝川の治水事業は今年、100周年の節目を迎えた。治水事業とかかわりのある関係者の思いや将来に向けたメッセージを紹介する。
(随時掲載)

十勝川治水100年記念事業

トークリレー



十勝川治水促進期成会 会長
米沢 則寿 氏



十勝毎日新聞
令和5年2月14日 3面 掲載